



オゴノリング大作戦

～最初の一歩～

認定NPO法人自然再生センター

1. 自然再生センターのVISION

自然再生センターは、
「未来へつなげ、ふるさとの水辺」をスローガンに掲げ、
実現のため4つのMISSIONに取り組んでいます。

①

循環型の暮らしを学ぶ
フィールドの提供

②

自立した経営

③

様々な主体との
協働・連携

④

次世代を担う
若者の雇用・育成

2. VISION達成に向けた「オゴノリング大作戦」

自然再生センターのVISION達成への第1歩目として、
4つのMISSIONに基づいた事業を
「オゴノリング大作戦」として実施します。

「オゴノリング大作戦」4つのMISSION概要

①循環型の暮らしを学ぶ フィールドの提供

3年間で環境循環を体験できるプログラムを確立しパッケージ化します。
開催数：年25回、参加者数：年20人が目標です。

▶循環型の暮らしを学ぶ場、また支援者との接点を生み出す場を作ることを目指します

②自立した経営

体験プログラム・農作物・肥料に付加価値をつけて販売します。

▶参加費や販売による収入により事業の黒字化を目指します

④様々な主体との協働・連携

一般財団法人セブン-イレブン記念財団をはじめとした企業21社と、県内外の一般市民350人とスキル提供やご寄付、商品の購入等という形で協働・連携することを目指します。

▶寄付・スキルを提供していただける支援者を拡大し、事業のクオリティ向上と共感者の増加を図ります。

③次世代を担う若者の雇用・育成

初年度1名正規雇用、3年後にさらに1名の有期雇用を目標とします。県外学生向けインターンシップを実施し地域の課題発見・解決のできる人材を育成します。

▶事業俯瞰力、問題解決力、企画力を身に付けた人材を育成し、事業の安定化・仕組み化を図ります

2. 「オゴノリング大作戦」の全体像

環境・人・お金が持続可能な形で輪のようにつながる仕組みを
3年間で作る



4. 3年間のマイルストーンとMISSION

環境循環の再構築を、年度ごとにテーマを設定しながら3年間で形にします。

	1年目 「やる・知る」 挑戦し、失敗からも課題を見つける	2年目 「確立する・できる」 現実と課題との差を縮め価値を見える化する	3年目 「ひろげる・伝える」 資金バランスを整え関係性を深め、自立する
①フィールド提供	フィールド整備・試験栽培	体験プログラム精査・フィールド拡大	あらゆる人に参加の機会を
②自立した経営	試験的实施	収入源の確保・コスト削減	収入源の拡大
③連携・協働	様々な形の連携・協働	専門スキル保有者との協働・連携	まきこむための協働・連携
④次世代育成	新規雇用・育成	生み出す・つなげる・見渡す力を養う	他者に伝える力を養う

5. 1年目の振り返り

「やってみる」ことで経験を積み、事業の全体像と改善点を把握しました

①循環型の暮らしを学ぶフィールドの提供

フィールド整備・体験プログラム

- ▶大根島の耕作放棄地整備
- ▶農作物栽培
- ▶体験プログラム開催



②自立した経営

農作物販売

- ▶農作物販売



③様々な主体との協働・連携

チーム構築開始・新規ネットワーク開拓

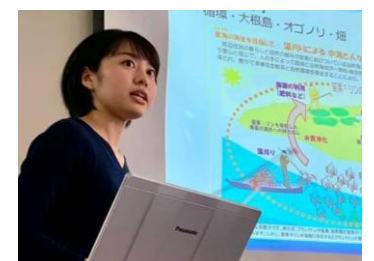
- ▶農作物栽培スキルの提供
- ▶農作物の購入
- ▶地元企業からのご寄付
- ▶セミナー開催
- ▶食の会開催



④次世代を担う若者の雇用・育成

新規雇用・育成

- ▶事務と事業のバランス感覚
- ▶事業関係者との調整



5. 1年目の振り返り ①フィールドの提供 のための具体的な取り組み

試験的に農作物を栽培し、その畑で体験プログラムを開催しました

①循環型の暮らしを学ぶフィールドの提供

フィールド整備・体験プログラム開催

▶耕作放棄地整備

大根島の耕作放棄地を借り、整備しました。

面積：10 a (1,000㎡)

▶農作物栽培

里芋・大豆を栽培しました。

土には部分的にオゴノリを混ぜ込みました。

収穫量 里芋：約37kg

枝豆：225本

大豆：約48kg

▶体験プログラム開催

どのような循環があるのかを知ってもらうために、畑でいろいろな体験をしてもらうイベントを企画し開催しました。

内容：植え付け・収穫・味噌づくり・オゴノリ刈り

開催数：畑関連8回/オゴノリ刈り4回

参加者数：畑関連のべ35名/オゴノリ関連延べ88名



5. 1年目の振り返り ②自立した経営 のための具体的な取り組み

農作物を販売し、どの程度の収入につながるかを把握しました

②自立した経営

農作物販売

▶ 農作物販売：里芋・枝豆・大豆を販売
方法：事務局前で直接販売/フェイスブック等を通して注文販売/関係する団体への売り込み

- ・ 里芋売上：37,200円
- ・ 枝豆売上：112,500円
- ・ 大豆売上：52,560円



5. 1年目の振り返り ③様々な連携・協働 のための具体的な取り組み

県内外の多様な主体とつながることを意識しました

③様々な主体との協働・連携

様々な形の連携・協働を得る

▶農産物を購入してもらう

ただ販売するだけでなく、事業の話や栽培過程の話をする
ことで事業を理解してもらったうえで購入していただき
ました。

▶地元企業からのご寄付

企業に赴き、事業についてご説明した上でご寄付を募り、
105,000円（7社）のご寄付をいただくことができました。

▶食の会開催

本事業で栽培した農作物や中海・穴道湖のお魚などをおいしく調理してもらい、参加者と食べる会を開催しました。
その際、事業について話すことで、周知と共感につながっています。

開催数：5回/参加者数：延べ201人

▶セミナー開催

事業に関連するセミナーを開催しました。全国から参加があり、「挑戦したくなった」といった感想があり、地域や県外にも、同じような志を持った仲間を得ることができました。

参加者数：30名



5. 1年目の振り返り ④次世代の育成 のための具体的な取り組み

全体のバランスをどのようにとるかを意識しました

④次世代を担う若者の雇用・育成

新規雇用・育成

▶事業と事務のバランス感覚

事業活動を法人事務の両方を担い、どのようなバランスで行うのがよいのかを探りました。

▶事業関係者との調整

地元漁師や農家の方、行政、企業との調整を担うことにより、経験値を得ました。



6. スタッフ後記

2018年2月に自然再生センターに入社し、プロジェクトリーダーという大役を任されました。戸惑いもありましたが、大根島の方々、イベント参加者の皆様、農作物を買ってくださった方々、本当に色々な方に応援していただきながら1年目を終えることができました！



これは難しかった...

特に難しかったのは、屋外でのイベント。強い雨が降り出してしまったときは地域の方が急遽テントを持ってきてくれたり、用意していた鍋が小さすぎた時は大きな鍋を持ってきてくださったたり...机の上で考えていた企画書通りに進むことはありませんでした。いろいろな場面で経験値があがり助けてくださった皆さんに感謝です。



これがうれしかった！

うれしかったのは、事務局前で枝豆を販売しているときに事業の説明をした上で「ほんならひとついただくわ」と言ってもらえたこと。自分の言葉で活動について伝えたいと共感し、買うという形で応援してもらえたことが本当にうれしかったです。



来年度に向けて

反省点は事業全体を俯瞰的に見ることができていなかったこと。

『自分が』取り組むことに集中してしまい、イベントを開催しても参加者の方と一時的なつながりにしかすることができず、せっかくの機会に関係性を十分に築くことができませんでした。

2年目は、予定通りにいかないことも予定に入れて、あらゆる状況でも臨機応変に対応できるように段取りしておくこと、そして様々な人と『一緒に楽しみながら』活動するということにより意識して、ネットワークもつくっていきたいと思います！

7. 2年目に向けて

それぞれのMISSIONの1年目の課題点を解決し、活動の輪郭をよりはっきりさせるための活動を行います。

①循環型の暮らしを学ぶフィールドの提供

体験プログラム精査・フィールド拡大

- ▶ サツマイモ・大豆栽培
- ▶ 体験プログラムのパッケージ化
- ▶ 新たなフィールド（池）整備

②自立した経営

収入源の確保・コスト削減

- ▶ 農作物販売
- ▶ オゴノリ肥料販売
- ▶ 視察受け入れ態勢整備

③様々な主体との協働・連携

専門スキル保有者との協働・連携

- ▶ ふるさと納税返礼品掲載
- ▶ オゴノリ肥料生産体制の確立
- ▶ プロとホームページの修正

④次世代を担う若者の雇用・育成

生み出す・つなげる・見渡す力を養う

- ▶ 様々な主体との連絡を取る
- ▶ 体験プログラムの企画力
- ▶ ブランド化プロセスを考える力
- ▶ 事業全体を俯瞰的に見る力

7.事務局長よりメッセージ

非営利法人運営・活動していると様々な課題に直面します。

例えば

- ・委託費、補助金に依存、寄付金が集まらない...
- ・次世代が育たない...
- ・理事が動いてくれない... など。

これらの解決のために大切なのは、

「挑戦すること」「評価に慣れること」「繋がること」の3つだと考えます。

挑戦して失敗すれば、組織は変わる。

成功より、失敗が大事でさらにそれを開示することでネットワークは広がっていくと考えています。

「成功」の反対は「失敗」ではなく「何もしないこと」。

「失敗」と思われるものも、必ず話の種になり、振り返ると笑い話に変わります。

【3つのポリシー】

- 挑戦すること
- 評価に慣れること
- 繋がること



【オゴノリング事業スタートしたポイント】

- 資金調達/申請書を書いてみる
- 次世代育成/身近な次世代と話してみる
- 理事会・組織運営/理事と協議以外の関係性を構築する

自然再生センターとは？

水辺と人々をつなぐ認定NPO法人です。

住民・企業・行政・専門家等が連携し、中海・宍道湖を含むこの流域の自然環境の再生と、かつての湖と人々の親しい関係を再構築するための活動を行うことにより、豊かな恵みを感じられる持続可能な社会の実現に貢献することを目的として活動している認定NPO法人です。小中学校での環境学習事業や、中海の浚渫窪地埋め戻し事業等、様々な事業を行っています。ぜひホームページやSNSでチェックしてみてくださいね！



認定NPO法人自然再生センター

〒690-0064 松江市天神町114

TEL：0852-21-4882 MAIL：info@sizen-saisei.org